

(別添資料1)

事業所名

障害児・者総合サポートセンターみつばち
児童発達支援「あんず」

支援プログラム

作成日

2025 年

3 月

1 日

法人（事業所）理念		育ちや発達に心配のある子どもたちが、自分らしく豊かに暮らしていけるよう、その子に応じた課題・状況を踏まえて成長・発達を支援します。							
支援方針		育ちや発達に心配のある子どもたちが、自分らしく豊かに暮らしていけるよう、その子に応じた課題・状況を踏まえて成長・発達を支援します。小さな集団で、お友だちとの関り方を具体的に練習します。様々な生活場面でソーシャルスキルトレーニングを意識した療育を行います。素直な気持ち、やさしい気持ちを育みます。そのために、スモールステップでゆっくりと成長を見守りながら、できたこと・頑張っていることを褒める場面を大切にしていきます。望ましくない行動・良くない習慣は、その場で毅然とした態度で注意します。「大人になったときに困らない」という視点を大切に、療育を行います。							
営業時間		9 時	00 分	から	17 時	30 分	まで	送迎実施の有無	あり なし
		支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	発達の偏りがあるお子さんたちにとって、生活リズムが整っていることは、身体的な健康面だけでなく、情緒の安定にもつながると考えています。そのために、排泄・手洗い・片付け等々、基本的な生活スキルが身につくよう支援します。来所時のルーティン・各場面での片付けの習慣化、トイレトレーニングや定時排泄の声掛け、衣服の着脱、水分補給の声掛け、お弁当時の食事のマナーや食具の使用の練習、歯磨きなど、機会をとらえ具体的にお手本などを示しながら支援しています。また日頃の子供の様子を観察し、表情や言動の様子がいつもと違う場合は、再度検温を行い、本人に体調の聞き取りを行います。							
	運動・感覚	姿勢の維持が難しい、体を制止させることが難しい、相手の動きを見てまねることが難しい、手先が不器用なお子さんたちが、楽しく運動・感覚統合ができる機会を設け、意欲が増すよう支援しています。朝の体操や外遊びの中で、いろいろな体の動かし方、力の入れ方を練習していきます。手をつないで歩く練習や目と手の供応動作の支援として、折り紙や塗り絵・シール張り・工作なども取り入れています。読み聞かせの時間は、お話ししている人に注目すること、聞く姿勢も練習していきます。							
	認知・行動	個人の発達段階にに応じて、必要な道具や見える分量を調整するなど工夫し、できた・わかったが増えるよう支援します。場面の切り替えなどは、タイマーやホワイトボードを使用するなど、視覚支援を行いながら、見通しがもてるよう支援しています。							
	言語 コミュニケーション	様々な場面で、自分の要求や気持ちを言葉にしていけるよう支援を行っています。言葉の発達に応じ、身振り手振りでも、伝える楽しさ・嬉しさを体験できるよう支援します。何をして遊びたいか、何を手伝ってほしいのか、言葉にするまで手を出さずに様子を観察し、必要に応じ具体的な言い方を伝え、自分で言葉にして伝えるために支援を行います。帰りの会では、楽しかったことを発表する場を設け練習をします。理解できる言葉・使用できる言葉が増えるよう、集団・個別を通じて支援を行います。							
	人間関係 社会性	友だちと楽しく過ごす経験を増やします。そのなかで、共同遊びの楽しさを経験し、社会性の発達を促します。友だちへの声のかけ方、嫌なことをされたときの伝え方などは、具体的な言い方を示しながら、年齢・発達に応じて、自分で伝えることができるよう支援します。ルールのある遊びでは、事前にルールを確認しながら、順番を守る、勝つことも負けることもあることなどえを経験しながら、ルールを守ることの大切さを学びます。							
家族支援		保護者の要望に応じ、個別に公認心理師・臨床心理士に相談することができます。					移行支援	保育所等訪問支援で、園との情報共有・課題の共有を行いながら、進級時や進学時、は必要に応じ連携を行います。	
地域支援・地域連携		保育所等訪問支援で、園との情報共有・課題の共有を行いながら、日々の支援に生かしています。					職員の質の向上	法人で行っている事例検討の研修会や、Zoomを使用した外部の研修会への参加を行っています。事業所内では、ベテランスタッフに他スタッフが随時相談し、療育の質の向上に努めています。	
主な行事等		七夕、夏休みの水遊び、遠足、クリスマス会、節分など、季節に合わせた活動を行っています。							